



プログラム

- PM 1:00 開会あいさつ 高知県精神保健福祉協会会長 明神 和弘
 来賓あいさつ 高知県知事 尾崎 正直
 高知市長 岡崎 誠也
 高知県医師会長 岡林 弘毅
- PM 1:20 表彰式
- PM 1:30 休 憩
- PM 1:35 アトラクション 藤戸病院デイケア
 コーラスグループ「HAZAMACER'S (ハザマッカーズ)」
- PM 1:45 休 憩
- PM 1:50 講演「不安と向き合うー土佐が生んだ森田療法の軌跡」
講師 東京慈恵会医科大学精神医学講座教授 中山 和彦
- PM 3:20 休 憩
- PM 3:30 シンポジウム「今をどう生きるか」
 シンポジスト
 「きっかけづくりとコトバのチカラ」～言霊・音霊・しゃぼん玉～
 路上詩人はまじこと 浜崎 一途
 「生活の発見会紹介」(特非)生活の発見会瀬戸内支部長 打浪 正信
 「高齢者に対する森田療法的・生活史アプローチの経験
 ～生活史を聴くことの大切さ～」
 高知大学医学部精神科講師 上村 直人
- 助言者 東京慈恵会医科大学精神医学講座教授 中山 和彦
 座長 高知県立精神保健福祉センター所長 山崎 正雄
- PM 4:25 閉会あいさつ 高知県精神保健福祉協会 副会長 猪谷 健

【主催】 高知県精神保健福祉協会

【事務局】 高知県精神保健福祉協会 高知市丸ノ内1-2-20 高知県地域福祉部障害保健福祉課内 TEL 088 (823) 9669

【後援】

高知県・高知県教育委員会・高知市・高知市教育委員会・高知県市長会・高知県町村会・(一社)高知県医師会・(社福)高知県社会福祉協議会・(公社)高知県理学療法士協会・(一社)高知県作業療法士会・高知臨床心理協会・高知県臨床心理士会・高知県精神保健福祉士協会・高知県医療ソーシャルワーカー協会・高知県精神障害者家族会連合会・(公社)高知県看護協会・(一社)日本精神科看護協会 高知県支部・高知県精神科病院協会・高知県精神科神経科診療所協会・(独)労働者健康福祉機構高知産業保健総合支援センター・高知県民生委員児童委員協議会連合会・(特非)高知いのちの電話協会・(特非)高知県難病団体連絡協議会・(特非)高知緩和ケア協会・NHK高知放送局・高知新聞社・RKC高知放送・KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ・高知ケーブルテレビ・エフエム高知



不安とむきあう

～郷土が生んだ森田療法～

とき 平成 27年 **10月20日火** 午後 1:00～4:30

ところ **高知県民文化ホール(グリーン)**

入場無料



「不安とむきあう」～郷土が生んだ森田療法～

大会実行委員長 谷 歩

第55回高知県精神保健福祉大会にご参加いただいた皆様にご挨拶を申し上げます。
皆さんは森田療法という治療法をご存知でしょうか。不安に上手に対処して行けるようになるための治療法で、海外でも評価されています。そして皆さんはご存じでしょうか。その森田療法が私たちの郷土出身の森田正馬先生が高知県の風土の中から生み出したことを。今回の精神保健福祉大会ではこの森田療法をテーマに取り上げています。

まず東京慈恵会医科大学精神医学講座主任教授の中山和彦先生に「不安と向き合う 一土佐が生んだ森田療法の軌跡」と題して、森田正馬先生がいかにして高知県の風土から森田療法を生み出していったか、森田療法はどんな治療法だと思えばいいか、そして生活の中の不安に向き合うためにどう活用していくかをお話いただく予定です。

後半の「今をどう生きるか」と銘打ったシンポジウムでは三人の方に森田療法あるいは森田療法と同じ効果を含む活動をされている方に参加していただきます。お一人は路上で向き合った方に即興で詩を捧げるパフォーマンスをなさっている路上詩人はまじこと浜崎一途さんです。二人目は実際に森田療法を活用している自助グループである「生活の発見会」の打浪正信さんに参加していただきました。そして三人目は医療として森田療法に取り組む立場から上村直人先生にもご参加願ひ、三人の方にそれぞれの取り組みをご紹介いただき、その後中山先生にも参加していただき、現代の生き方について、森田療法の活用の仕方についてディスカッションしていただきます。

現代の社会は多様な問題が山積されている、変化の速い、その変化に対する適応を強いられることの多い状況の社会だと思います。そんな状況の中私たちは「このままでいいのだろうか」、「何をしたらいいのだろうか」、あるいは「どうなっていくのだろうか」など多様な不安を抱きやすいのではないのでしょうか。今日の大会をつうじてそんな現代の生み出す不安への対処方法の参考にさせていただいたり、心の平安を保つ一助となりましたら幸いです。

第55回高知県精神保健福祉大会開催にあたって

高知県精神保健福祉協会 会長 明神 和弘

第55回高知県精神保健福祉大会は、「不安とむきあう～郷土が生んだ森田療法～」をテーマとさせていただきます。森田療法は高知県出身の森田正馬先生が自らの体験をとおして得られた知見を元にして創案されたもので、大正から昭和の初期に神経質の治療法として用いられていました。現在では神経質のみならず、様々な精神疾患に関しても応用されており、100年近くたった今でも輝きは失われていません。

「不安や恐怖はあるがままにして、なすべき事をなしていく」といった考えは、混沌とし先が見えない社会の中で不安な生活を送っている人々にどのように生きていくかを教えてくれているように思えます。

第一部では、東京慈恵会医科大学精神医学講座主任教授の中山和彦先生に「不安と向き合う 一土佐が生んだ森田療法の軌跡」との演題で、森田療法の成立過程や森田療法とはいかなるものか等お話いただく予定です。

第二部はシンポジウムです。路上詩人はまじこと浜崎一途さん、「生活の発見会」の打浪正信さん、森田療法を実施されている上村直人先生に「今をどう生きるか」をテーマに各々の取り組みをお話していただきます。その後、中山先生にもご参加いただき森田療法をからめてのディスカッションを予定しています。

大会が、郷土の生んだ森田療法に関する知識を深め、参加された皆様方のこれからの生き方にプラスになればと願っております。

講演タイトル

「不安と向き合う 一土佐が生んだ森田療法の軌跡」



講師

東京慈恵会医科大学
精神医学講座

なかやま かずひこ

中山 和彦

森田正馬は、幼名を「光(みつ)」といった。正馬も「しょうま」なのか「まさたけ」なのか決定できない。正馬は明治7年(1874年)1月18日、高知県香美郡富家村(現・野市町)兎田(うさいだ)で生まれた。森田のもって生まれた神経質性格はこの地域独特の文化の照射によって得体の知れない「不安」として発光した。それは真言宗 須磨寺派 金剛寺にあった地獄絵であり、「犬神憑き」の土俗の信仰と「いざなぎ流」の存在であった。森田の最初の仕事は、「犬神憑き・調査研究」であった。それは迷信・邪教を排除するためであったが、後の森田療法を世に排出するために大きな意義をなした。

森田療法が完成し、学位論文として受理された時、森田はすでに50歳だった。その後の人生は14年しか残されていなかった。当事者であるからこそ、森田正馬が知っていたことは何であるか。それは神経症の症状は、想像以上に苦しいものであるということである。森田自身に啓示されたものは、「言葉で理解できない不安への挑戦」であった。結局森田は言葉で到達できない森田療法を考案した。しかし言葉で追及する必要があった。それは、当事者に対して、「直さなくていいんだ」という福音を与える事と「体得する」ための覚悟に必要な「きっかけ」としての言葉探しでもあった。それが13冊の著書、特に病床で書き上げた6冊に表れている。森田も言葉で不安をやっつけたかった。森田が体験した不安は、その本態は何だったのだろうか。森田療法成立過程を通して森田療法の大黒柱である「暗示性」と「とらわれ」の構造を考えてみる。

講師プロフィール

■ 学歴と職歴

昭和52年、東京慈恵会医大卒業後、精神医学講座で研修、助教、講師を経て平成6年に准教授
平成8年からロンドン大学、精神医学研究所で客員教授として留学
平成13年から中華人民共和国、大連医科大学の客員教授
平成15年4月より京都府立医科大学客員教授
平成16年4月より東京慈恵会医科大学 精神医学講座 主任教授

■ 専門領域

精神薬理学、非定型精神病、女性の精神医学、森田療法

■ 主な著書

「向精神薬の科学」(星和書店/1992年)、「こころのかたち」(星和書店/1994年)、「抗うつ薬の科学」(星和書店/1995年)、「特定不能な精神疾患」(星和書店/1996年)、「非定型精神病・症例集」(星和書店/1996年)、「プライマリケアのための心の病」(永井書店/1999年)、「チャート精神科第4版」(医学評論社/2010年)、「中高年のうつ」(大泉書店/2003年)、
大人の発達障害(ナツメ社/2010年)、精神薬理学エッセンシャルズ3版(監訳:MEDSi/2010年)
よくわかる 思春期の発達障害(ナツメ社/2012年)、片づけられない大人たち(東院日書/2012年)、てんかんの生活指導ノート(金剛出版/2014年)、言葉で理解する森田療法(白揚社/2014年)

■ 学会・専門雑誌関連

- 学会評議員：
日本精神神経学会、日本心身医学会、日本生物学的精神医学会、日本神経精神薬理学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本精神科診断学会、日本臨床時間生物学学会、日本てんかん学会、日本うつ病学会、日本精神病理・精神療学会、日本統合失調症学会、日本不安障害学会、日本AD/HD研究会
- 学会理事：
東京都精神医学会、スポーツ精神医学会常任理事、日本森田療学会、日本女性心身医学会、多文化間精神医学会、月経関連医学研究会代表、日本産業精神医学会、日本外来精神医療学会
- 編集委員、参与、顧問：
精神神経学雑誌、最新精神医学、日本森田療学会、こころの臨床ア.ラ.カルト、臨床精神医学顧問、精神医学編集同人、臨床精神薬理協力編集委員

■ 認定医、指導医および専門役員

- 認定医、指導医
精神保健指定医、専門医、指導医、日本てんかん学会認定医、認定産業医、日本心身医学認定医、森田療学会認定医、日本老年精神医学会専門医、指導医、認定健康スポーツ医、臨床精神神経薬理学専門医及び指導医
- 専門役員
厚生労働省の薬事・食品衛生審議会専門委員、治験相談臨時顧問、東京都公安委員会指定、足立区役所主任産業医、足立区教育委員会主任産業委、東京都精神医療審査会委員、独立法人医薬品医療機器総合機構専門員、航空身体検査証明審査会委員、墨田区役所産業医